



広報

としま

新年号

資源保護のため
再生紙を使用しています

平成7年
(1995年)

1/1

No. 945

発行: 東京都豊島区

編集: 企画部広報課

〒170 豊島区東池袋1-18-1

☎3981-1111

〈毎月5・15・25日発行〉



大
野
画

題画
影摺
大きさ

富士山
横山大観
渡辺和夫
佐藤勸次郎
10号

迎春



豊島区議会議長
山田 五郎



豊島区長
加藤 一敏

明けましておめでとうござります

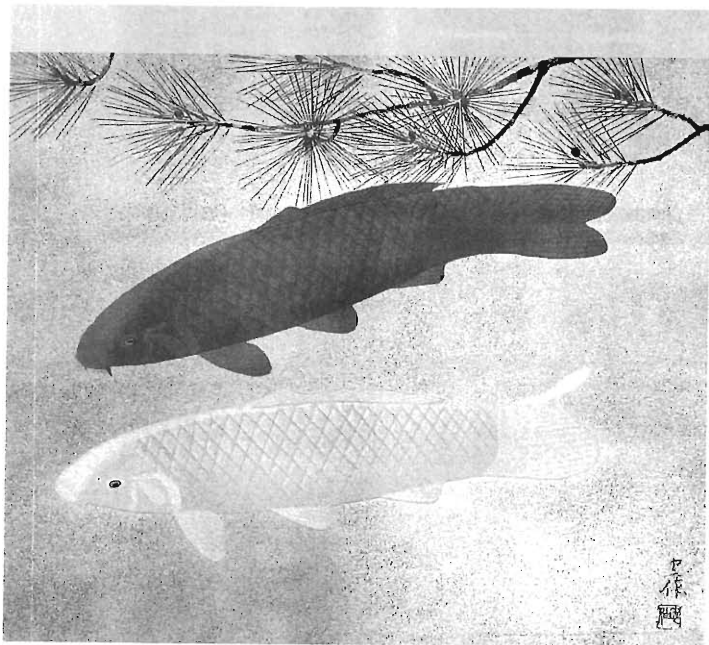
長く暗い経済不況のトンネルにようやく光の差し込む出口を見いだしつつ、激しい変革の流れの中で、区民の皆様とともに新しい年を迎えました。

21世紀まであとわずか、今年も明るく住みよい街づくりへ向かって、さまざまな試練を乗り越え、着実に歩を進める年にならしたいと思います。

これまで本区の長い歴史の中で、区民の皆様が培い育てきた個性ある独自の文化をさらに発展させ、暮らし豊かにこころ輝く都市——豊島をめざして、新しい基本構想をまとめます。

今年はまだ、戦後50年という大きな節目の年でもあります。過去の史実を冷静に見つめ、改めて、21世紀にはばたく子どもたちのためにも、平和を守る決意を新たにしたいと思います。迎えました新しい年が区民の皆様お一人おひとりととりまして、より良い、幸せ多い一年となりますよう心から祈念いたします。

平成七年元旦



題 松鯉
画 大山忠作
彫 文寿礼三
大きさ 10号

題 爪びき
画 伊東深水
彫 大蔵半兵衛
大きさ 8号



題 富嶽三十六景 凱風快晴
画 葛飾北斎
彫 菊田幸次郎
大きさ 大錦判



題 上野清水堂の雪
画 川瀬巴水
彫 不明
大きさ 大錦判



題 染井吉野乃桜
画 樫逸雄
彫 渡辺和夫
大きさ 大錦判

次代へつなぐ 伝統の技

江戸時代に花開いた浮世絵木版画。この木版画の伝統的な摺りの技を現代に伝えているのが、東池袋四丁目在住の佐藤勲次郎さん(81歳)です。佐藤さんは、昭和2年、13歳のときに摺りの手ほどきを受けて以来、この道一筋60余年。木版画摺師の第一人者です。この特集では、浮世絵木版画の特殊技法を忠実に伝承するとともに、卓越した感性により原画の色調・色彩を再現している佐藤さんの作品を紹介します。



佐藤勲次郎さんのプロフィール

13歳から20歳の徴兵検査時まで、神田の安井留吉氏のもとで、木版画摺師としての技術を学ぶ。兵役終了後、昭和12年に文京区江戸川橋近くで独立。豊島区には戦後から住み始めた。

鋭い感性で、風情豊かな色彩を表現するとともに、長年の経験で培った勤と経験、完成された技法によって、柔らかみのある作品を生み出している。

また、日本木版工芸組合、東京木版画工芸組合、浮世絵摺師技術保存協会の理事として、伝統技術の保存奨励と若手の指導育成に尽力。このほか、東京都をはじめ各自治体の工芸展等に積極的に協力、木版画摺師として実演・実習を行うなど、伝統的木版画技術の紹介に努めている。

昭和58年、芸術・文化に対する功績大として、内閣総理大臣主催による懇親会に招待された。

また、平成5年、豊島区伝統工芸保存会の発足と共に初代会長に就任した。

木版画摺り

木版画は、発注元である版元が制作を企画し、絵師が原画を描き、彫師は色別に版木を彫り、摺師が摺り上げるといふ、それぞれが専門の伝統的分業で仕上げます。

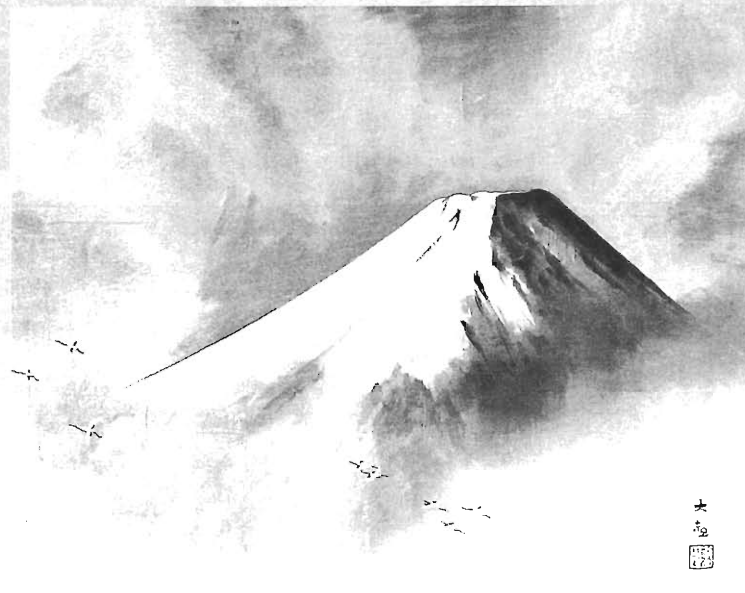
彫師が彫った色別版木を一枚の和紙に摺り、原画を再現させるのが摺師の役割です。かつての木版画は、色摺りといっても3色程度でした。しかし現代の版画は、数十枚の版木表裏に絵があるというように複雑な多色摺りに変化し、1枚の版画を仕上げるまでには30~150回も摺るようなものが多くなりました。摺りには、ブラシ・ブラシ・手刷毛などの道具を使います。

摺師は同じ版木で100枚以上の木版画を仕上げますが、この際、絵の具のはき方、濃淡を同一にしなければならず、熟練と細心の注意が要求される作業です。

■主な材料
和紙・絵の具

■主な工程

版木	彫師によって彫りあげられた版木
紙を水で湿らす	押しをして平らにする
線描き	紙を乾燥させないようにする
摺る	多色摺りなので色の数だけ摺る



大
三
文

題 霊峰飛鶴
画 横山大観
彫 文寿礼三
大きさ 10号



題 甲陽猿橋之圖
画 安藤廣重
彫 菊田幸次郎
大きさ 大錦判2枚合わせ



題 瀬来の夕
画 川瀬巴水
彫 不明
大きさ 大錦判



